



てんりょうごうつほんまちいらかかいどう

天領江津本町甍街道

平成15年度認定 / 島根県江津市 / 本町地区歴史的建造物を活かしたまちづくり推進協議会

「夢」+「瓦」=「甍」。街道の輝き再び。

中国山地を貫いて流れる大河・江の川が日本海に注ぐその河口に開けた江津は、天領の町です。町を山陰道が貫き、東は大森銀山、西は浜田へと通じていました。「土どござか床坂」にはその名残をとどめる石畳や道標が残っています。

江津は陸路だけでなく、古くから舟運と海運の要衝として栄え、江戸時代には北前

船の寄港地として、また、天領米の積み出し港として賑わいました。由緒ある神社や寺も多く、江戸から昭和初期の繁栄ぶりをうかがわせます。また、赤い石州瓦の生産地でもあり、独特の赤い家並みが続いています。

JR三江線が走る江の川の川岸から町中に向けて、多くの廻船問屋の蔵屋敷が軒を



荷物を運ぶ牛馬をつなぐための
「鼻ぐり石」

山陰道が貫く
天領の町は、
「石州瓦」のセピア色。



赤い石州瓦の町並み



亀山から望む日本海

島根
⑧天領江津本町甍街道

連ねていました。その面影を伝える大きな屋敷が廻船業で財を成した「藤田家」です。古い石州瓦の大屋根に煙だしが付いた江戸時代の建物です。また、土塀や門の屋根にもうすたかく棟瓦を積んだ「横田家」、格子が美しい「高原家」「飯田家」などもその繁栄ぶりを物語る建物です。川の縁には荷を運んできた際に牛馬をつないだ「鼻ぐり石」がずらりと並んでいます。

明治の和洋折衷の建物を模した「旧江津郵便局」は色ガラスなど各所に洋風デザインを取り入れた異人館の趣きです。郵便局を建てた職人さんは神戸まで洋館を学び

に見に行ったそうで、新しい文化を見事に取り入れた感性や技が光ります。かたや、「旧江津町役場」は、大正時代の建築で、アールデコ調のレリーフが施された当時最先端のビルディングです。ここには、昭和47年の災害時の水位を示すプレートが付けられています。

今は静かな町ですが、進取の気鋭に富んだ氣質と心意気はしっかりと受け継がれ、「夢」+「瓦」=「甍街道」と名付け、賑わいづくりに取り組んでいます。

歴史だけでなく、風景もしみじみと味わってもらいたい。江津はそんなまちです。



「本町地区歴史的建造物を活かしたまちづくり推進協議会」
会長の黒川聰さん(左)とボランティアの学生(右)

江津は、江の川舟運と北前船が交わる良港であり山陰道とも交差する物流の要でした。屋根に使われている赤瓦や町のあちこちに置かれている「はんど」と呼ばれる水がめは、出雲地方で採れる来石を含む釉薬を用いて焼かれたものです。こんな暮らしの中にあるものや、江の川や線路と赤瓦がしっくりなじんだ町の風景などをしみじみと味わってもらえるよう、ガイドの説明も歴史を語るだけでなく、工夫をしていかさなくてはと思っています。また、「円覚寺」のチョウチョに戯れる唐獅子の生き生きとした錆絵(こてえ)は一見の価値があります。

